

ロバート・ネラー米海兵隊総司令官の発言に対する抗議決議

米海兵隊のロバート・ネラー総司令官は5月2日、普天間飛行場について「非常に古い施設で第2次世界大戦にさかのぼる。建設当初の写真を見ると、数キロ以内に住む人はいなかった。今は飛行場周辺の市街地がフェンスのすぐ近くに広がる」と発言したとの新聞報道があった。

これまでも当時の在沖米国総領事のアルフレッド・マグルビー氏の「どうして普天間飛行場の周りに住宅地が密集したのか不思議だ」との発言や、作家の百田尚樹氏の「普天間基地は田んぼの中にあり、周りは何もなかった」と言った発言など、いずれの発言も事実と反しており、沖縄の歴史に対する無理解からくるもので、到底看過できるものではない。

普天間飛行場がある場所は戦前、当時の村役場や国民学校があり、南北には国指定天然記念物でもある宜野湾並松（ジノーンナンマチ）と呼ばれる街道が走っていた。そのような中、普天間飛行場は村の全22字のうち、14字にまたがる宜野湾村の中心地に建設され、その14字には多くの住民が生活していたということは、宜野湾市史や地元住民の証言などから明らかとなっている。

よって本市議会は、今回の米海兵隊ネラー総司令官の発言が、宜野湾市民の民意を全く無視し愚弄するものにほかならず、許しがたいものであることから発言の撤回と謝罪を強く要求する。

平成30年6月8日

沖縄県宜野湾市議会